

最近のCLT建築物等の 動向について

CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例

花王株式会社研修所 ゆうけい 佑啓塾



所在地: 東京都墨田区
用途: 事務所
階数: 地上5階 (木造、RC造、S造)
延べ面積: 2,577.49m²
竣工年月: 2025年9月
CLT活用方法: 床
CLTの使用量: 116.32m³
備考: 2~4階にCLT床を採用。

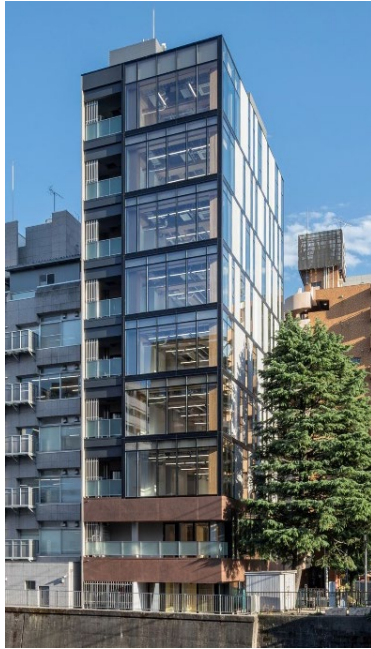
WADATSUMI



所在地: 岡山県玉野市
用途: 共同住宅(社員寮)
階数: 地上3階(木造)
延べ面積: 730.38m²
竣工年月: 2025年11月
CLT活用方法: 床
CLTの使用量: 94m³
備考: 木造在来軸組み工法の床にCLTを用いた共同住宅。
床の遮音性能を検証するため、20室それぞれ異なる仕様となっている。

CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例

KiGi AKIHABARA



所在地: 東京都千代田区
用途: 事務所・店舗
階数: 地上9階(木造・S造)
延べ面積: 1,015.71㎡
竣工年月: 2026年5月
CLT活用方法: 床
CLTの使用量: 62.1m³
備考: 耐火性能を有するCLT床を共用部に採用。
※別紙(1)

INATETSU Forge & Flow LAB



所在地: 三重県四日市市
用途: 事務所
階数: 地上3階(木造、S造)
延べ面積: 1,395.66㎡
竣工年月: 2026年9月(予定)
CLT活用方法: 壁
CLTの使用量: 61m³
備考: CLTに水平力と鉛直力を負担させ、鉄骨梁架構を組み合わせることで、10m×17mの無柱大空間を実現する。

鯨政本店 テナントビル



所在地: 埼玉県さいたま市
用途: 店舗
階数: 地上9階(S造+CLT耐震壁)
延べ面積: 894.23㎡
竣工年月: 2026年10月(予定)
CLT活用方法: 壁
CLTの使用量: 20m³
備考: CLTを耐震壁として利用することにより耐震性能を強化。

CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例

※別紙(1)



報道関係各位

2026年7月22日

株式会社サンケイビル

都心の中高層オフィスに木造×鉄骨造のハイブリッドという新たな選択肢
サンケイビル初の木造中高層オフィスビル「KiGi AKIHABARA」開業
～ 木を働く空間へも広げたオフィス ～



株式会社サンケイビル（本社：東京都千代田区大手町、代表取締役社長：飯島 一暢）は、当社初となる木造中高層オフィスビル「KiGi AKIHABARA」を開業します。

「KiGi AKIHABARA」は、「木でつながる。人がかやく。」をコンセプトに、木材を建物の構造に加え、オフィス空間や利用者体験、さらには開業後の活動にまで広げる都市型オフィスです。本物件は、木造と鉄骨造を組み合わせた地上9階建のハイブリッド構造オフィスです。建物中央のコアを鉄骨造、外周部を木造フレームとすることで、都市部の中高層建築に求められる性能と木材利用の両立を図りました。

建設時には、同規模の鉄骨造と比較して約59.1トン、約19%の鉄を木材に代替し、建設時CO₂排出量を約112.3トン削減できたと試算しています。さらに、鉄骨の一部への電炉材使用や、再生可能エネルギーの環境価値の活用により、建設時から運用時まで環境配慮を進めます。

構造体として採用した木材を、オフィス空間や利用者体験、開業後の活動にまで活かすことで、都市と森、人と人の関係性を育む場を目指します。

●本リリースのポイント

- ・サンケイビル初となる木造中高層オフィスビル「KiGi AKIHABARA」開業
- ・木造×鉄骨造ハイブリッド構造により、都心の中高層オフィスにおける木材活用を具現化
- ・約59.1トン、約19%の鉄を木材に代替し、建設時CO₂排出量を約112.3トン削減
- ・自社開発の物流倉庫屋上太陽光発電所で生み出した環境価値を活用し、当社初となる使用電力の実質100%再生可能エネルギーを実現
- ・木を建物に使うだけでなく、働き方や利用者体験、開業後の活動にまでつなげたオフィス

■概要

「KiGi AKIHABARA」は、地上9階建の木造×鉄骨造ハイブリッド構造オフィスビルです。建築分野で脱炭素や資源循環への対応が求められる中、都市部の中高層オフィスビルでは、構造・施工・事業性の観点から木材利用の導入が進みにくい現状があります。大規模開発だけでなく、都心の限られた敷地でも木材活用の可能性を広げることを目指し、本物件では木造と鉄骨造を組み合わせたハイブリッド構造を採用しました。木質技術と鉄骨造を適材適所で組み合わせ、都心の中高層オフィスでの木材活用の新たなアプローチを具現化しています。

■KiGi AKIHABARAの特徴

特徴1：都市に適應する木造×鉄骨造のハイブリッド構造

建物中央のコアを鉄骨造とし、外周部を木造フレームとする構造により、都市部の中高層建築に求められる性能と木材利用を両立しています。

特徴2：日本初採用の3つの技術（※） 複数の木技術を組み合わせた設計

本物件では、都市部の中高層オフィスにおける木材活用を実現するため、木技術を複数採用しています。木を構造材、耐火被覆、耐震部材として活用することで、木造×鉄骨造ハイブリッド構造を支えています。これらの取り組みは、国土交通省「令和6年度優良木造建築物等整備推進事業」に先導枠として採択されました。（※ 自社調べによる）

① 木質耐火部材「環境配慮型λ-WOOD II（ラムダウッド・ツー）」

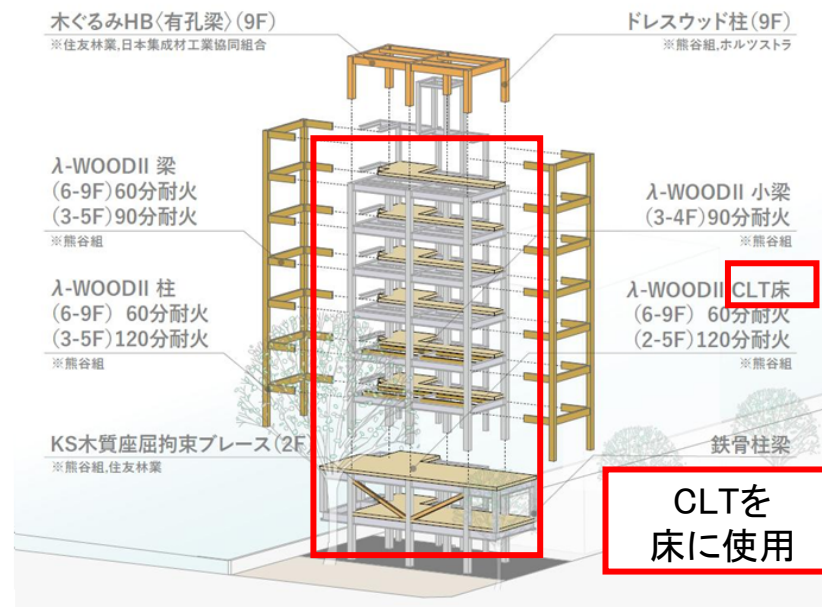
構造体の柱・梁・床に採用する木質耐火部材です。木材を構造に利用しつつ耐火性能を確保し、接着剤を使用しないため、解体時に木材と耐火被覆材を分別解体しやすく、リサイクル時の環境負荷低減にもつなげます。

② 木材を活用した鉄骨部材「ドレスウッド」

木材を耐火被覆として利用した鉄骨部材です。鉄骨の強度を活かしながら、断熱材と木材で耐火被覆を施し、表面を木材とすることで、都市型オフィスの空間にも木の質感を活かしています。

③ 木質材料を用いた耐震部材「KS木質座屈拘束ブレース」

木質材料で鋼材を拘束し、安定的な変形性能を発揮する耐震部材です。国産カラマツを活用できる技術で、国内林業の活性化にもつながる取り組みです。



なお、これらの木質技術には、株式会社熊谷組および住友林業株式会社の技術を活用しています。

出典：株式会社サンケイビルホームページ (<https://www.sankeibldg.co.jp/news/>)

CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例 ※別紙(1)

特徴3：働く空間や入居者の体験にも広げた木材の活用

建物に採用した木材を、オフィス空間の内装や入居者の体験にまで活かしています。木質耐火部材や木材を用いた構造部材を空間で感じられる要素として可視化し、意匠と構造を一体的に設計しています。

共用部やラウンジには、内装の木質化と木製家具を配置し、利用者の交流や滞在を促す空間としています。開業後も、木や森に関わる活動や情報発信を継続し、「木でつながる。人がかがやく。」というコンセプトを運用面でも展開していきます。

空間デザイン監修者コメント

本物件の1階・2階・9階の空間デザイン監修にはPuddle社が参画しています。木材を感じられる要素として取り入れ、共用部やラウンジなどで利用者の滞在や交流を促す場づくりを行っています。

Puddle株式会社/代表取締役 加藤匡毅

KiGi AKIHABARA では、従来のオフィスビルにはない、公園のような居場所をデザインしました。基壇部は神田川の水脈をたどるように、赤土や多摩の土壁、国産材の家具によって、この場所が自然とつながっていると感じさせる空間を目指しました。オフィス階にもカフェのような居場所を設け、働くだけでなく語らい、発想が広がるオフィスを目指しました。木の洞のように、人やアイデアを受け止め、新たなストーリーが育まれることを願っています。



<2階 ラウンジ>



<セットアップオフィス>



<屋上テラス>



<1階 カフェ>

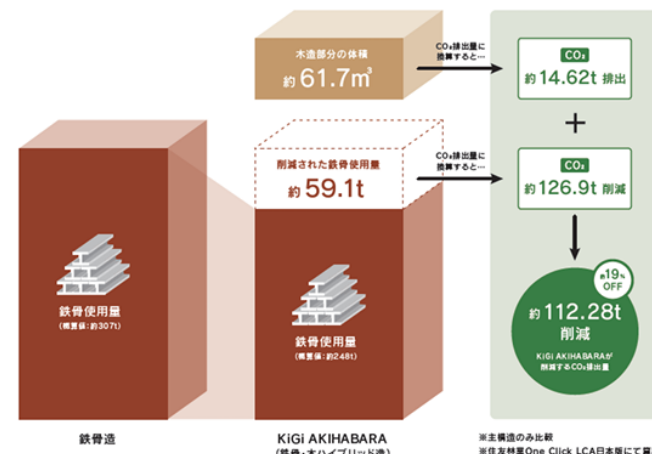


<館銘板>

■建設時から運用までを見据えた環境配慮

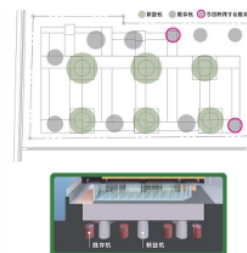
本物件では建設時CO₂排出量の削減や資源循環に取り組んでいます。木造建築技術や電炉鋼材を採用することで、同規模の鉄骨造と比較すると、約59.1トン（約19%）の鉄を木に置き換えており、CO₂排出量を設計時の躯体検討で約19%削減しています。

CO₂排出量削減の取り組み



また、その他にも、既存杭の活用や、旧建解体時に発生した金属スクラップを再利用する「鉄のクローズド・ループ」などにより、建設から運用までを見据えた資源循環を推進しています。さらに、自社で開発した物流倉庫屋上の太陽光発電所で生み出した再生可能エネルギーの環境価値を証書化し、当社初となる使用電力の実質100%再生可能エネルギービルを実現しています。

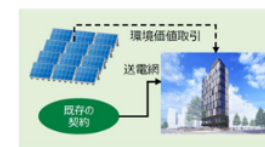
既存杭利用



鉄のクローズド・ループ



再エネ利用非化石証書



CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例 ※別紙(1)

■ブランドコンセプトと今後の展望

KiGi AKIHABARAは、「木でつながる。人がかがやく。」というブランドスローガンのもと、木を媒介に、人と人、都市と森をつなぐ場を目指しています。建物の完成をゴールとするのではなく、開業後の活動や情報発信を通じて、関係性や価値を育んでいく点が当プロジェクトの特徴です。今後もサンケイビルは、KiGi AKIHABARAを通じて、木を活かした都市型オフィスのあり方を社会に発信し、建物だけでなく、そこで生まれる交流や共創の活動まで含めた価値創出に取り組んでいきます。



CONCEPT

木でつながる。
人がかがやく。

都市と森。人と人をつなぐ。KiGi。
木を通して、都市と森がともに歩んでいく場所をつくれます。
はじまりの手帳に開かれ、わくわくする未来ははじまっています。
未来の暮らしを取り組み、未来とともに成長します。
いざいざと、人がかがやく。KiGi。
たくさんの可能性が、あふれる。育ちますように。
未来をよりよくする物語が、はじまりますように。

- ・ KiGi 公式 WEB サイト
<https://kigi-wood.green/>
- ・ KiGi 公式 note
<https://note.kigi-wood.green/>

■SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

私達は今後もひとつひとつ丁寧な開発を行い、都市に暮らす人々の生活利便性や、働き方・暮らし方の多様性に応えるために、時代に合わせた建物を提供することで、人々が安心して働けるまちづくりに取り組み、社会貢献を意識した開発に取り組んでまいります。なお、本リリースの取り組みは SDGs における以下の目標に貢献しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目標 7：

太陽光発電パネルを設置し、脱炭素社会の実現に貢献します。省エネ、長寿命の LED 照明を設置し、空調換気容量を適正化することで、消費エネルギーの削減を行います。

目標 8：

館内 Wi-Fi、ラウンジスペースを設置し、過ごす人・働く人に快適な環境を整備します。屋上テラスの設置や個別空調の導入などにより、快適性や知的生産性の高い労働空間を提供いたします。

目標 11：

街並みや景観に配慮した外構・植栽計画により、地域の街づくりや景観の向上に寄与します。

目標 12：

既存建物解体時の鉄スクラップの再利用等で環境資源を有効に活用します。また、構造物への木材の利用、鉄骨の電炉材の利用などにより、建設時の CO₂排出量を削減しています。

目標 15：

イヌワシの生態系保持のために間伐された木材の家具への利用を行っています。

■物件概要

物 件 名	KiGi AKIHABARA
所 在 地	東京都千代田区東神田二丁目 8-16
構 造 / 規 模	木造・鉄骨造/地上 9 階建
敷地面積/延床面積	169.27 m ² /1072.04 m ²
総 貸 室 面 積	711.57 m ²
設 計	株式会社熊谷組一級建築士事務所
施 工	株式会社熊谷組・住友林業株式会社
竣 工	2026 年 5 月 29 日
ア ク セ ス	東京メトロ日比谷線「秋葉原駅」徒歩 6 分、都営新宿線「岩本町駅」徒歩 6 分、JR 山手線・京浜東北線・中央線・総武線、つくばエクスプレス線「秋葉原」駅徒歩 9 分、JR 総武線「浅草橋」駅徒歩 6 分



【リリースに関するお問合せ先】

株式会社サンケイビル 広報課

TEL：03-5542-1313

FAX：03-5542-1377

【物件に関するお問合せ先】

株式会社サンケイビル 建築技術部

TEL：03-5542-1341

FAX：03-5542-1350

CLTをめぐる最近の動き（１）

別紙 1

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和 8 年 8 月 7 日
住宅局住宅生産課

令和 8 年度「優良木造建築物等整備推進事業」採択プロジェクトの決定

～木造化に係る先導的な設計・施工技術が導入されるプロジェクトを採択～

2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、炭素貯蔵効果が期待できる中大規模木造建築物の普及に資するプロジェクトや木造化に係る先導的な設計・施工技術が導入されるプロジェクトを支援しています。

■採択結果（募集期間：令和 8 年 4 月 15 日から 5 月 26 日まで）

令和 8 年度優良木造建築物等整備推進事業の募集を行い、先導枠^{※1}への応募のうち、2 件のプロジェクト^{※2}を採択しました。（提案数：2 件）

※1 先導枠：木造化に係る先導的な設計・施工技術が導入されるプロジェクト

※2 採択プロジェクトの概要は別紙 1、事業の概要は別紙 2 を参照

■その他

・先導枠への提案 2 件についての採択結果です。同時に募集した普及枠の採択結果は、7 月 17 日に発表済みです。

・2 回目以降の募集は検討中です。募集を行う場合は別途お知らせします。

・過去の採択プロジェクト一覧は以下の URL より確認できます。
<http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/mokuzou.top.html>

<問い合わせ先>

住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室
電話：03-5253-8111（代表）

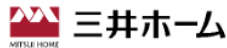


令和 8 年度「優良木造建築物等整備推進事業」先導枠採択プロジェクト講評

プロジェクト名称			
提案者		講評【評価されたポイント】	
建設地	用途		
延べ面積	階数		
（仮称）木挽ビルホテル計画			
日鉄興和不動産株式会社		都心の細長敷地に建つ企業所有の事務所ビルを、混構造（S 造・RC 造・木構造）による地上12階・地下1階建て滞在型ホテルへの建替えプロジェクト。 構造は、CLT耐震壁の採用や建物両端を木造フレームとする他、建物ファサードには木製ブレースを主構造の構面外に設置して意匠性を高めるだけでなく、大地震時には鉄骨を先行降伏させることで、建物全体のDs値を鉄骨造の0.25とする工夫を行っている。 防火では、2時間耐火のCFT柱「木被覆耐火鉄骨ドレウッド」や、1.5時間耐火の「クールウッド」を梁に採用するほか、鉄骨梁と木梁の混合梁とした箇所を設け鉄骨部分に梁貫通を設ける工夫を加えている。またCLT耐震壁は鉄骨大梁との取り合い部のスラブ厚を確保して熱橋を防止するなど、既往の技術も活用している。またCLT耐震壁は、遮音間仕切りと一体化させて、耐火・遮音の両性能を確保するとしている。 耐久性では、耐震木ブレースやCLT耐震壁の仕上げに不燃木や強化石膏ボードを用いるが、張り替えが可能なディテールとしてメンテナンス性を向上している。	
東京都中央区	ホテル・飲食店・自動車車庫		
9,742.82㎡	地上12階 地下1階		
			
木材利用・建築生産システムは、釜石地域の材料を積極的に用いることを方針とし、地域産材をグレーディングして集成材の強度を設定することとしている。			

CLTをめぐる最近の動き（2）

NEWS RELEASE



三井不動産グループ
& EARTH

2026年6月29日
三井ホーム株式会社

三井ホームグループ初の木造交番が完成

～北海道にCLT※¹を利用した5つの木造交番が完成～

地元建材の活用で地域社会活性化に貢献～

三井ホーム株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：野島秀敏、以下「当社」）は、地域事業会社※²である三井ホーム北海道株式会社（本社：北海道札幌市北区、代表取締役社長：伊藤清、以下「三井ホーム北海道」）が、木造交番を5箇所に完成させたことをお知らせいたします。本事業では、札幌市および恵庭市に5つの新たな木造交番を建設。三井ホームグループでも木造交番の施工・完成は初の取り組みです。構造体にCLTを利用し、工場で組み立てた箱型ユニットを採用することで、安全性や環境に配慮し、地域の安全・安心を守る拠点である交番の整備を、高品質かつ合理的な形で実現しました。また、北海道産の建材も積極的に活用することで、持続可能な地域社会の実現に寄与いたします。

本取り組みのポイント

- 三井ホームグループ初の木造交番の建設
- 構造体にCLTを利用し、工場で組み立てた箱型ユニットを採用することで、安全性・環境配慮を実現
- 地元建材の積極活用や地元企業との連携などを通して、地域社会の活性化にも寄与
- 木造による断熱性能の向上や炭素貯蔵により脱炭素社会の実現に貢献



元町交番



麻生交番



北都交番



北野交番



恵み野交番

本事業は、2025年12月下旬から工事を開始し、2026年5月までに全棟竣工しました。

当社は、創業以来、「木」を活かした住まいづくりを通じて豊かな暮らしと持続可能な社会の実現に貢献してきました。今後も「木」の可能性を追求し、中大規模建築物の木造化を推進することで、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

本資料は、「国土交通記者会」「国土交通省建設専門紙記者会」「北海道経済記者クラブ」「札幌市政記者クラブ」「北海道建設記者会」にお届けしています。

本件に関するお問い合わせ先 三井ホーム株式会社 マーケティング・コミュニケーション部 コーポレート・コミュニケーショングループ

津田・池本

TEL：03-6370-7562 Mail：kouhou@mitsuihome.co.jp

構造体にCLTを利用し、工場で組み立てた箱型ユニットの採用で、安全性・環境配慮を実現

地域住民の安全・安心を守る拠点である交番の建設には、高い安全性の他、環境配慮や地域貢献などの役割も求められます。このニーズに応えながらより効率的な建設を行うため、構造体に優れた強度・剛性を有する国産スギ材のCLTを利用し、主要構造部を予め工場で組み立てた箱型ユニットを採用しました。結果、高い安全性を確保しながら、ユニット化によって移築・移転が必要な場合の再利用も容易となりました。



CLTのユニットを設置し接合した構造



施工中交番

地元建材の積極活用、地元企業との連携などを通じた地域社会への貢献

本事業では、北海道産トドマツを下地材に、北海道産カラマツを構造用合板や構造用LVL※³に、北海道産シラカバを造作家具（カウンター・机）に使用する等、地元建材を積極的に活用します。特にシラカバは道民に親しまれているため、各交番の外観はアイコンとしてシラカバ調のアクセントルーバーで装飾しています。また、構造体施工は地元工務店である西條産業株式会社（本社：北海道小樽市有幌町、社長：西條公敏）が担当するなど、設計・施工・品質管理において道内の様々な企業と連携します。これらを通じ、地産地消の推進や地域経済の活性化にも貢献いたします。



木調のアクセントルーバーを外観に使用した一例



北海道産シラカバを使用したカウンター

木造による断熱性能の向上や炭素貯蔵により脱炭素社会の実現に貢献

本事業では、寒冷多雪地の北海道で冬期間の最低室温を概ね15℃以上に保つため、外壁に外断熱工法を、窓には3層断熱ガラスを使用した樹脂サッシを採用して高い断熱性能（HEAT20※⁴：G2レベル）を実現しました。加えて、熱交換換気扇と高効率エアコンの採用による効率的な室温の維持、LED照明や節湯型エコハンドル仕様の水栓の採用等を通して、省エネ性能も向上させています。

また、木には、成長過程でCO₂を吸収し、建材となった後も炭素を貯蔵し続ける特性があります。5棟を合計した炭素貯蔵量は82t-CO₂※⁵で、スギの木（50年生）99本分※⁵となります。さらにCLTは優れた強度・剛性を有し、これまで木材があまり使われてこなかった中大規模の建築物にも用いることができるため、国土交通省も普及を促進する※⁶など脱炭素社会の実現に寄与する工法として注目を集めています。木造であることによって、道産材の活用を通じた運搬・工事車両の削減に伴うCO₂排出量の低減なども、脱炭素社会の実現に貢献いたします。

※1 CLT（Cross Laminated Timber／直交集成材）…木材の板を繊維方向が互いに直交するように積層し、接着・圧着して製造する大型木質パネル。優れた強度・剛性を有し、壁・床・屋根等の構造材として使用される。厚さにより耐火性能が確保されるほか、工場での高精度な加工が可能で、中大規模建築への適用が進む。

※2 三井ホームの完全子会社で、直営型販売・施工会社。地域密着の事業を展開し、その地域に合わせた顧客満足度の向上に努めている。

※3 LVL（Laminated Veneer Lumber／単板積層材）…単板を繊維方向に揃えて積層、接着した木質構造材。

※4 一般社団法人 20年先を展望した日本の高断熱住宅研究会。

※5 林野庁の公表している「建築物に利用した木材にかかわる炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」をもとに貯蔵量を計算し、スギの木蓄積相当量も換算。

<https://www.rinva.maff.go.jp/i/mokusan/mienuka.html>

※6 国土交通省公式サイトCLTの普及に向けた取組： https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk4_000088.html

CLTをめぐる最近の動き（2）

プロジェクト概要

発注者 : 警察共済組合北海道支部
建設名称 : 令和7年度買取型交番、駐在所整備事業（第一次）
設計監理 : 三井ホーム北海道株式会社
施工 : 三井ホーム北海道株式会社
規模・構造 : 平屋及び2階建、全5棟・木造（CLTを使用した箱型ユニットの構造）
工事時期 : 2025年12月～2026年5月

各施設概要

① 元町交番



施設名：東警察署 元町交番
建設地：札幌市東区北24条東18丁目15番19
階数：2階建

③ 北都交番



施設名：白石警察署 北都交番
建設地：札幌市白石区北郷4条13丁目11番2、11番3
階数：平屋建

⑤ 恵み野交番



施設名：千歳警察署 恵み野交番
建設地：恵庭市恵み野西1丁目23番6、23番9
階数：平屋建

② 麻生交番



施設名：北警察署 麻生交番
建設地：札幌市北区北39条西5丁目335番5
階数：2階建

④ 北野交番



施設名：豊平警察署 北野交番
建設地：札幌市清田区北野4条5丁目354番17
階数：平屋建

【三井ホームは MOCX Green Project を推進します】

https://www.mitsuihome.co.jp/company/mocx_green_project/

MOCX Green Project とは、これまでに 25 万棟以上の木造建築をつくってきた当社が、さらなる木造建築の可能性を広げ様々な取り組みを通じて脱炭素に貢献していくプロジェクトです。



■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪とらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。2024 年 4 月の新グループ経営理念策定時、「G R O U P MATERIALITY（重点的に取り組む課題）」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】

・「グループ長期経営方針」 <https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>

・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/

EARTH for Nature」 <https://www.mitsuifudosan.co.jp/business/development/earth/for-nature/>

また、2025 年 4 月に、街づくりにおける環境との共生宣言「&EARTH for Nature」を策定し、「環境」を自然と人・地域が一体となったものと捉え、豊かな「環境」を広げ、未来の世代へつなぐ街づくりを推進しています。本宣言における重点課題として、「緑を守り育む」「水の魅力を生かす」「生態系を豊かにする」「地域の想いをつなぐ」「自然資源を循環させる」の5つを定めています。本リリースの取り組みは、「&EARTH for Nature」における重点課題の2つに貢献しています。



本資料は、「国土交通記者会」「国土交通省建設専門紙記者会」「北海道経済記者クラブ」「札幌市政記者クラブ」「北海道建設記者会」にお届けしています。

本件に関するお問い合わせ先 三井ホーム株式会社 マーケティング・コミュニケーション部 コーポレート・コミュニケーショングループ 津田・池本

TEL：03-6370-7562 Mail：kouhou@mitsuihome.co.jp

& EARTH with WOOD

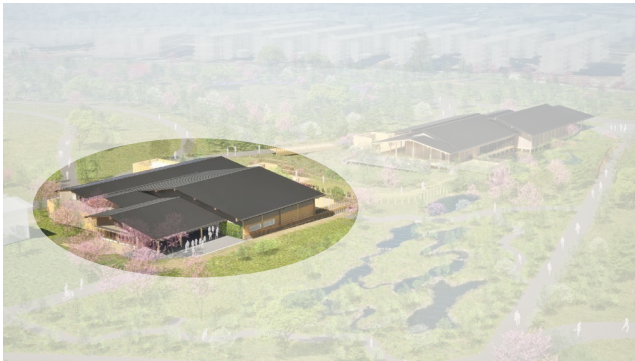
出典：三井ホーム株式会社ホームページ (<https://www.mitsuihome.co.jp/company/news/2026/260629.pdf>)

CLTをめぐる最近の動き（3）

【横浜グリーンエキスポ】 CLT活用事例

- 2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（令和5年8月31日 2027年国際園芸博覧会関係閣僚会議決定）に基づき、CLTを活用した整備を進めている。

〈日本政府苑（東館）〉



【建物概要】

建築面積：1,731㎡

高さ：9m

構造形式：木造平屋建

CLT使用樹種：（国産）スギ

CLT使用量：53㎡（梁材として使用）

〈テーマ館（アトリウム棟）〉



【建物概要】

建築面積：2,410㎡

高さ：13m

構造形式：木造（CLT）+鉄筋コンクリート造
+一部鉄骨造

CLT使用樹種：（国産）スギ、ヒノキ

CLT使用量：776㎡（梁材として使用）